

2011年 JAC 関西 夏季懇談会の講演を聴いて

2011年8月29日 金井健二

先日の JAC 夏期懇談会の松浦さんの講演は素晴らしかったです。出席者全員が大拍手をおくりました。下記は、現在の私の心境です。ロートル OB の個人的感想に過ぎませんが HP に掲載くださるようお願いいたします。

8月25日、関西支部恒例の夏期懇談会が大阪凌霜クラブで開催された。講師は早稲田大学 OB の松浦輝夫さんである。ご承知のように松浦さんは大阪出身、昭和45年の JAC エベレスト遠征隊のサミッターであり、早稲田大学の K2 遠征隊（サミッターはクーラ・カンリでお馴染みの大谷映芳さん）では隊長を務められた第一級の岳人である。

ローツエシャール、エベレスト、K2 を通じてのご自身のヒマラヤとの関わりを、早稲田大学山岳部の伝統を踏まえて語られた講演は大変迫力があり、満場の拍手で終了した。エベレスト登頂のエピソードもさることながら、ローツエシャールの苦闘から K2 登頂に至る早稲田の登山のバックボーンになったのは、その強固なパーティシップという伝統であったとお話は感動的だった。特に K2 の計画は、当初、全国の第一級のクライマーを選びすぐっても無理だろうと云われたが、それを打破できる唯一のものは早稲田の伝統である強固なパーティシップしかないということになり、実際の登攀活動でそれが遺憾なく発揮されたことが成功をもたらしたという松浦さんの遠征隊長としての話には参加者全員が大きな感銘を受けたようだった。特にアルパインスタイルによるソロの極限登山全盛の現在、特に大学山岳部関係者にとっては示唆に富む名講演だったと思う。

この夏期懇談会に当たって、個人的希望ではあったが、私には ACKU ロブチン関係者に是非とも紹介したい人がいた。K2 隊員だった米本隆夫さんである。米本隆夫さんが JAC 関西支部報に山と人 17 号の書評を書いてくださったことはご承知のことと思うが、ロブチン遠征に関しても、米本さんは ACKU とは直接の関係がないにもかかわらず、終始暖かい応援をしてくださったからである。私はこの機会にロブチン関係者に米本さんを紹介し、一言直接お礼を云って欲しかっただけである。残念なことに懇談会出席者は両金井と高田誠君だけという一昨年までの JAC 集会のスタイルにすっかり戻っていた。昨年の夏期懇談会はロブチン初登頂の報告であった。ロブチン関係者は大勢の参会者から暖かい拍手をもらったばかりではないか。この夏期懇談会に ACKU 特にロブチン関係者から一人の出席もなかったことには全くがっかりした。松浦さんの話が特に大学山岳部関係者に大好評であっただけに「ロブチンの方は誰も見えてませんな」というある出席者の言葉はこたえた。ACKU の活動が折角認められてきているときに、松浦さんを講師に招いた今度の集会へのこの驚くべき無関心さはなぜなのだろう。